

# グローバルな交流学習を支援する メディアミックスシステム

関西大学大学院総合情報学研究科  
渡辺 哲郎

JCET2000 10.07.(Sat) @鳴門教育大学

# 発表の流れ


- グローバルな交流学習とは？  
(Meet the GLOBE Project の紹介)
- 交流を成立させるための要素の集合としてのシステム
- 交流を支えるメディア
- 現状と今後

Collaboration		
System (Project)		
Media	Media	Media

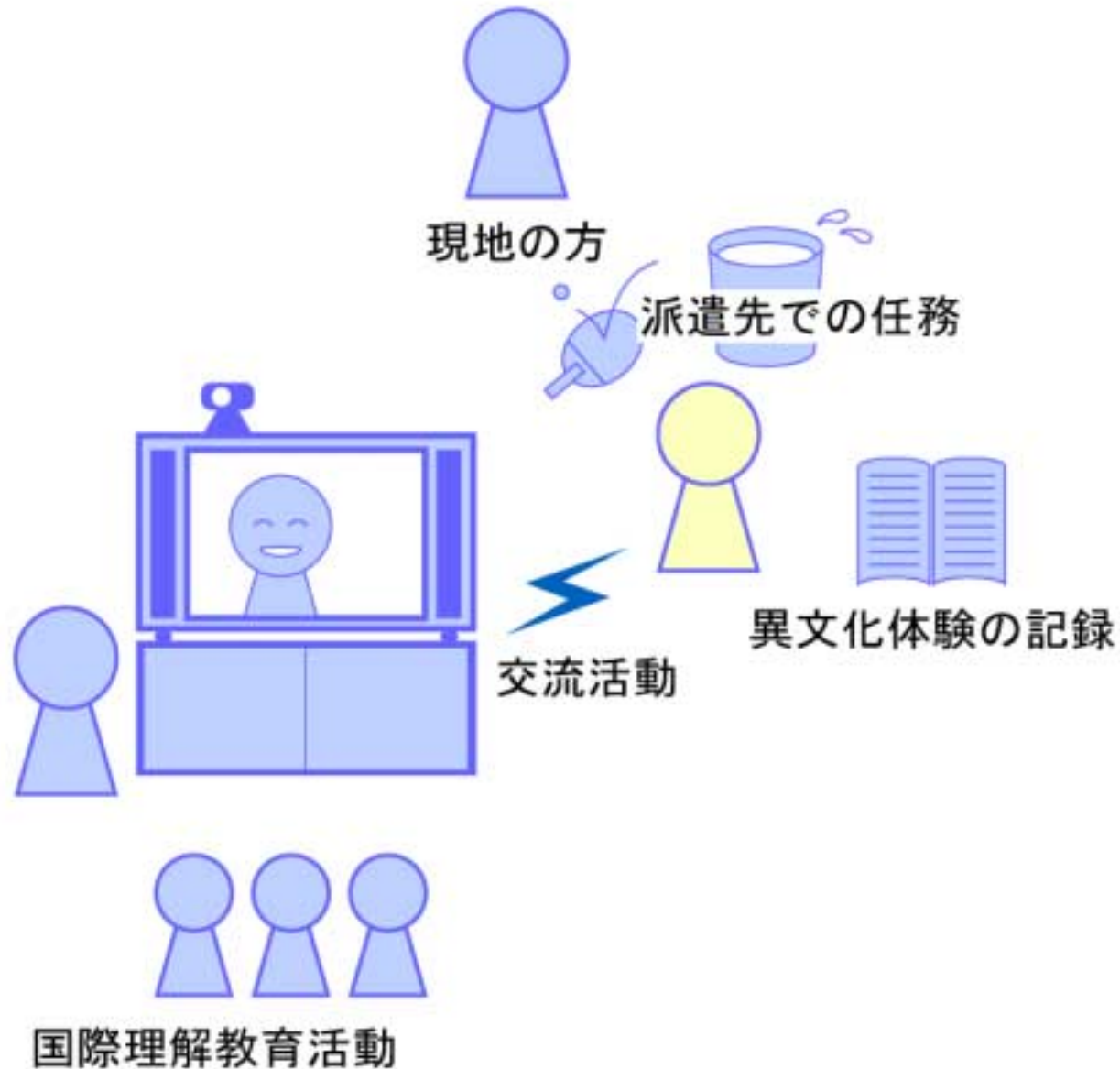


# Meet the GLOBE Project

青年海外協力隊員の協力を仰ぎ、

- 異文化体験の事例収集
  - 電子メールなどを利用して学校と協力隊員が交流活動を行う
- 

# プロジェクトの概略



# プロジェクトの背景

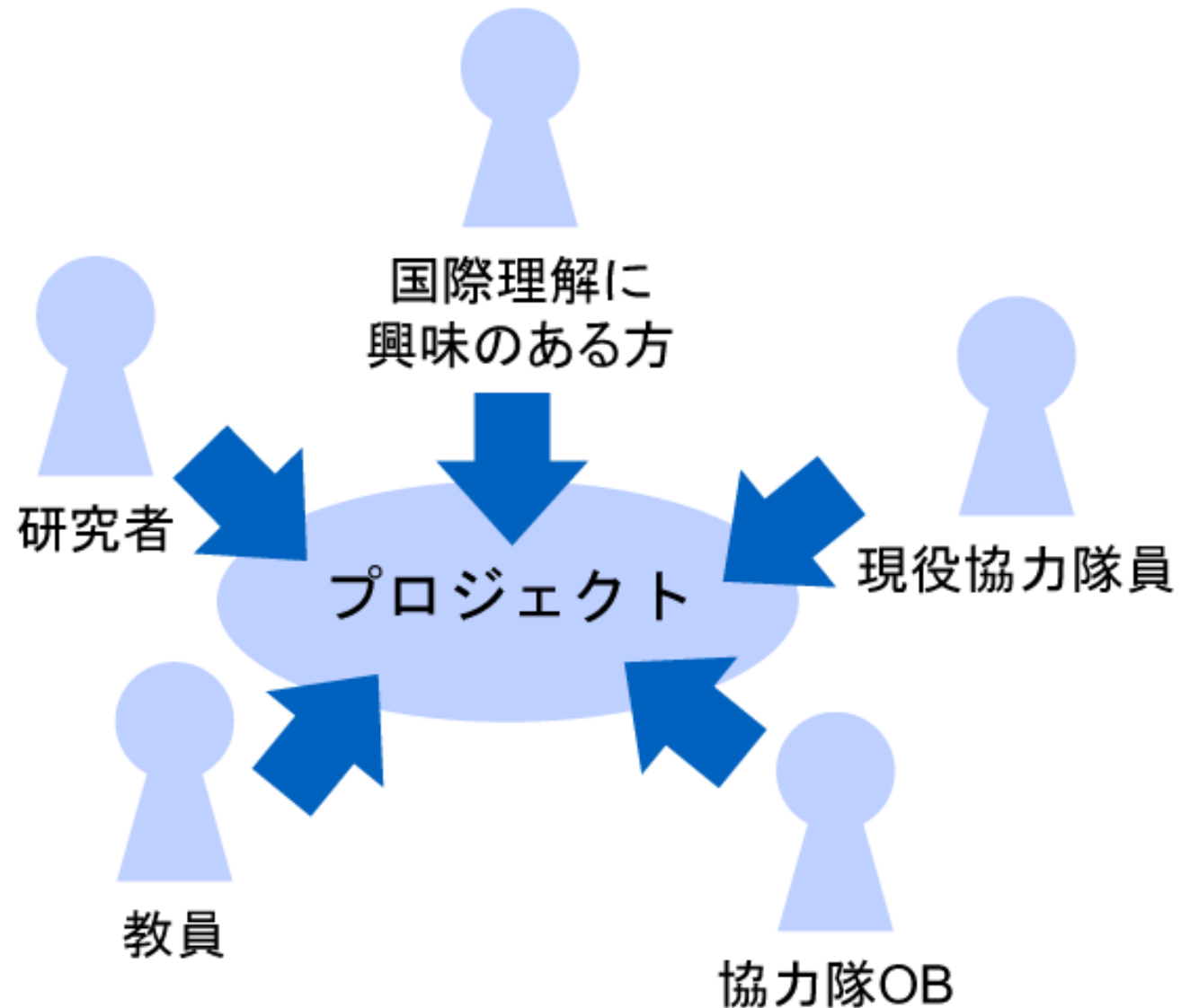
- 協力隊員の、現地でのコンピュータ利用率の高さ(今回派遣隊員は90%以上が持参)
- 文字通り世界規模のネットワークを活用できるのではないか？
- 国際的な視野、コミュニケーションスキルなど、総合的学習も視野に

# 本プロジェクトにおける“交流”の特徴

- 海外にいる日本人を相手にする
  - 言葉の壁が存在しない
- 学校の生徒ではなく、青年海外協力隊員
  - 立場も違うし、  
あまり日本になじみのない国々

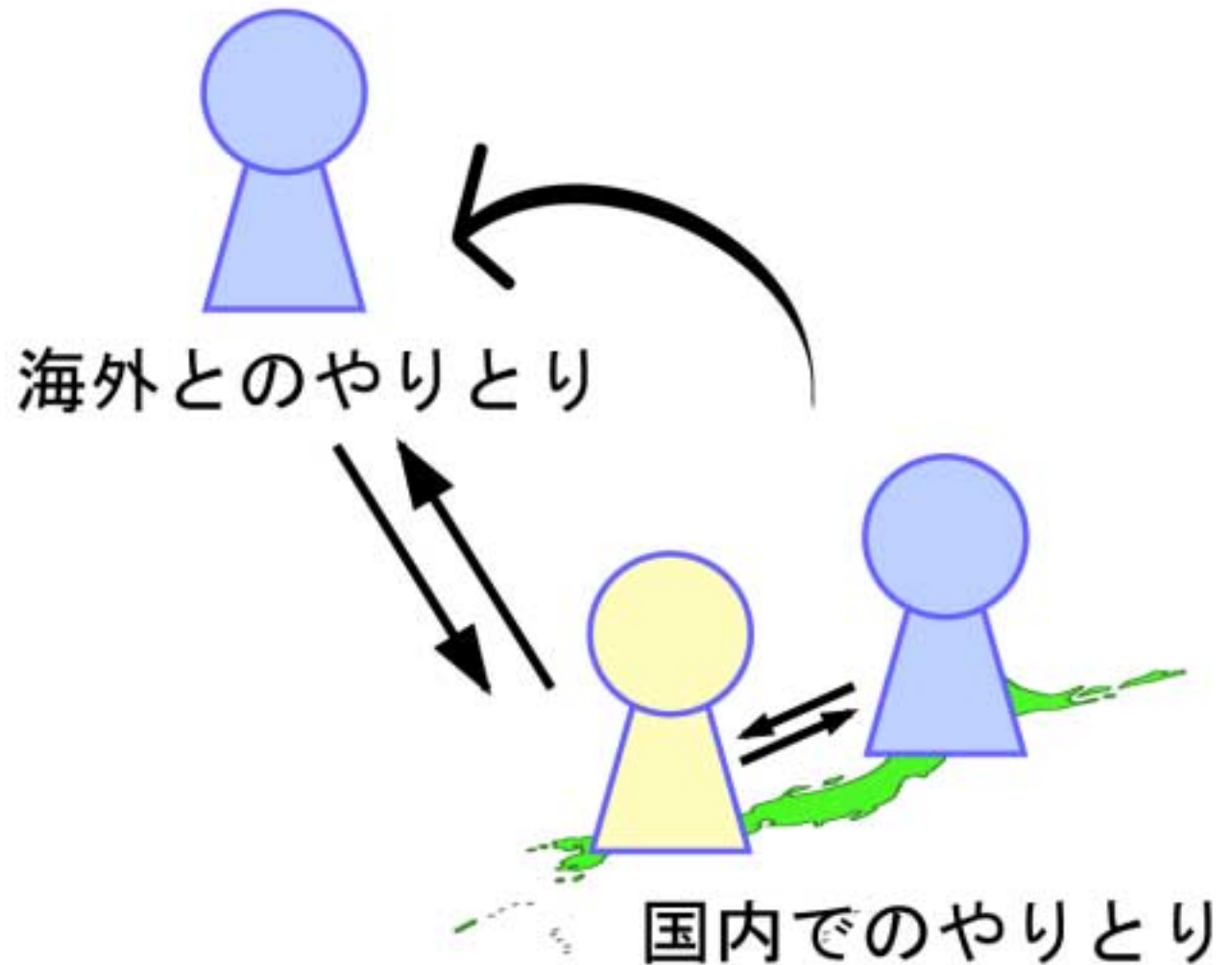
# プロジェクトの具体的な動き

プロジェクトの  
公開と人材募集



# プロジェクトの具体的な動き

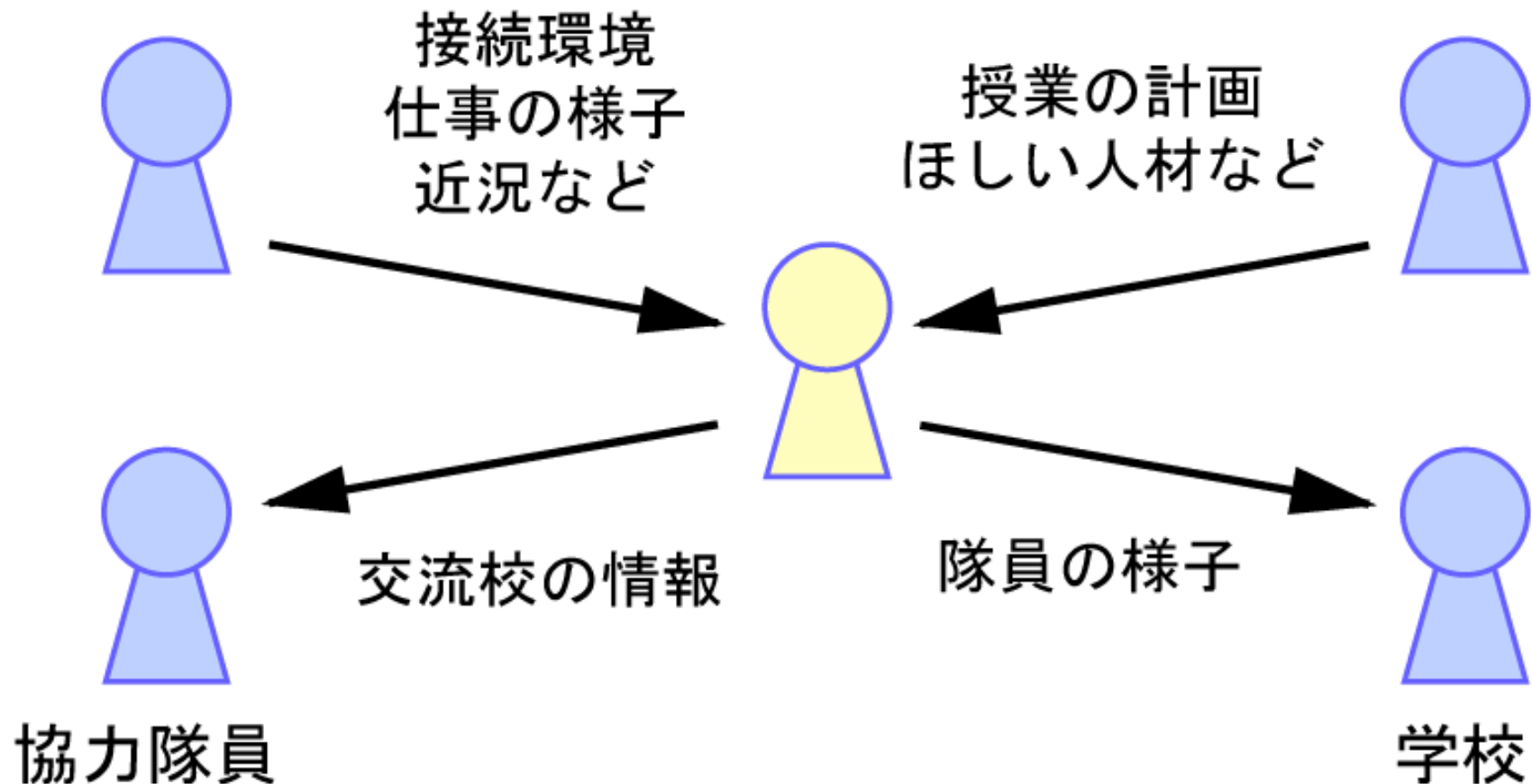
隊員との  
コンタクト



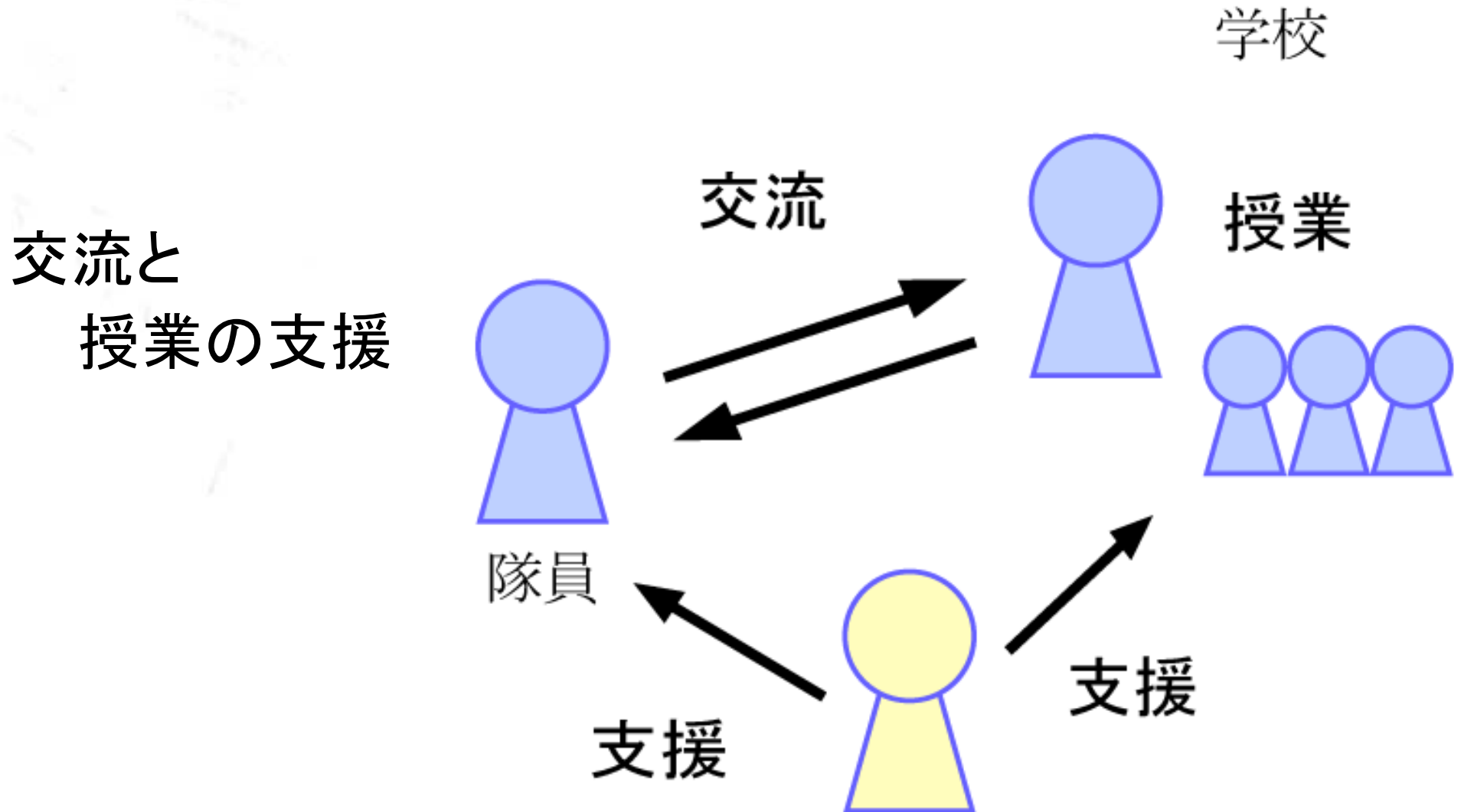


# プロジェクトの具体的な動き

## コーディネート



# プロジェクトの具体的な動き



# 全体を一つのシステムと捉えて

- プロジェクトの公開と人材の募集
- 隊員とのコンタクト
- 隊員と学校とのマッチング(コーディネート)
- 実際の交流の支援
- 交流以外の授業の支援

内容的に21世紀を睨み

本プロジェクトの資産を丸ごと残すことを目標に

# 交流に当たっての基本的な考え方

インターネットへの接続は  
かなりの贅沢であろう



長時間の接続を必要  
としない方法を採用

隊員は世界中あらゆる  
地域に派遣されている



時差の問題で同期型の  
コミュニケーションは困難



× TV会議やマルチメディアデータの転送

○ 電子メール(最低ラインと想定)

# 予想していた利用メディア

スタッフ内でのやりとり	ML
全体への通知	ML および Web
個別の連絡	メール
隊員同士の交流	ML か掲示板
先生方の相談	ML か掲示板
隊員と学校の交流	メール

# 実際の利用状況

## 隊員サイド

メールの頻度	ほぼ毎日	週1	手紙
Web へのアクセス	内容のチェックも十分に可能	表示することすらままならない	

- 掲示板の利用が事実上不可能に
- メールも期待通りに機能しないことが多い

# 実際の利用状況

## 学校サイド

連絡手段	メール
対面授業	人
資料提供	ビデオなど

交流そのもののほかに交流を豊かにするための準備に様々な工夫が必要

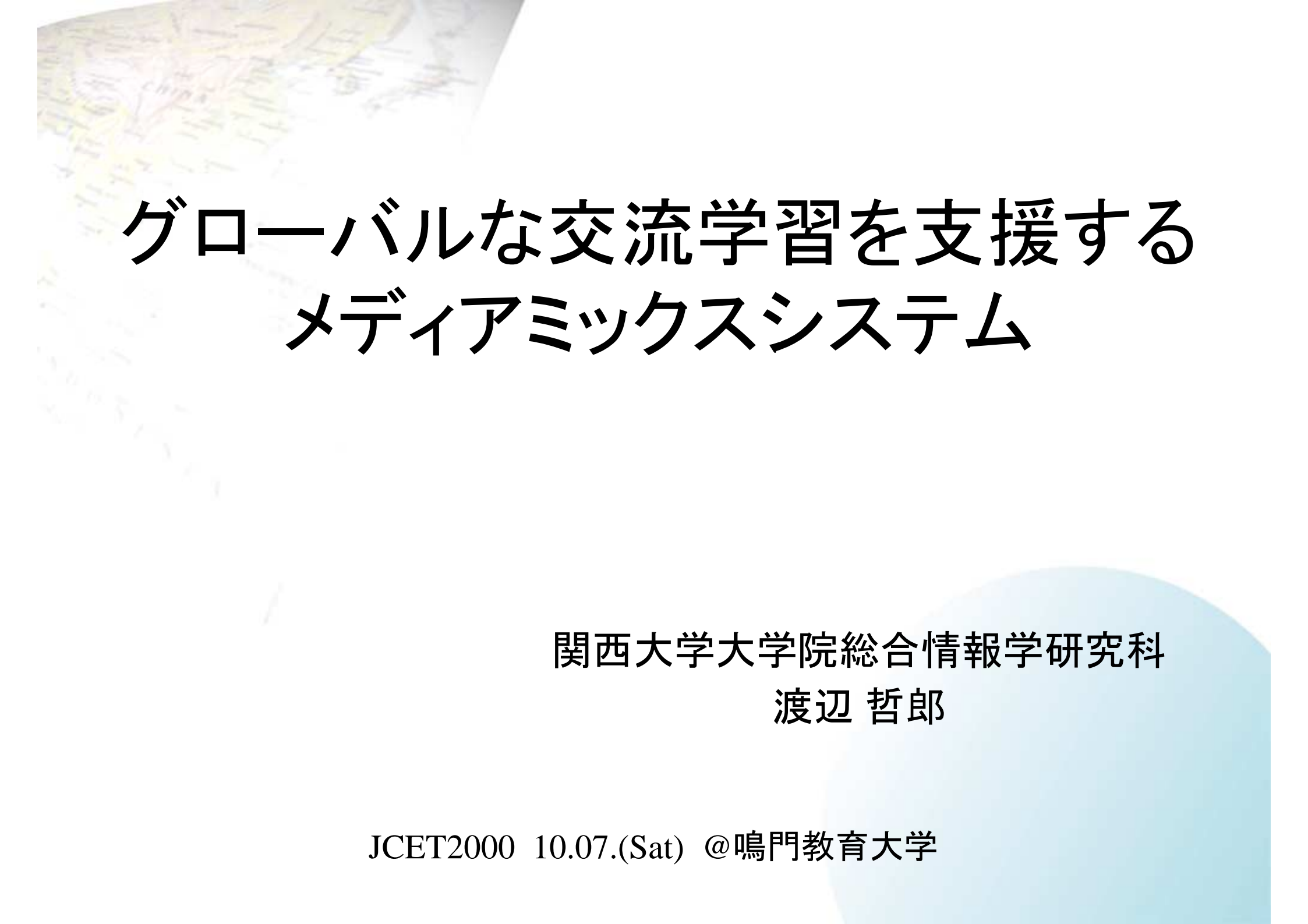
# 現在の利用メディア

スタッフ内でのやりとり	ML
全体への通知	ML および Web および手紙
個別の連絡	メールか手紙
交流の事前準備	人、ビデオ
隊員と学校の交流	メールか手紙



# 現在の進捗状況と今後

- 授業開始直前
- なおマッチング中
- 交流と授業のモニタリング
  - システムから学習へ
- 異文化体験事例の集積



# グローバルな交流学習を支援する メディアミックスシステム

関西大学大学院総合情報学研究科  
渡辺 哲郎

JCET2000 10.07.(Sat) @鳴門教育大学